



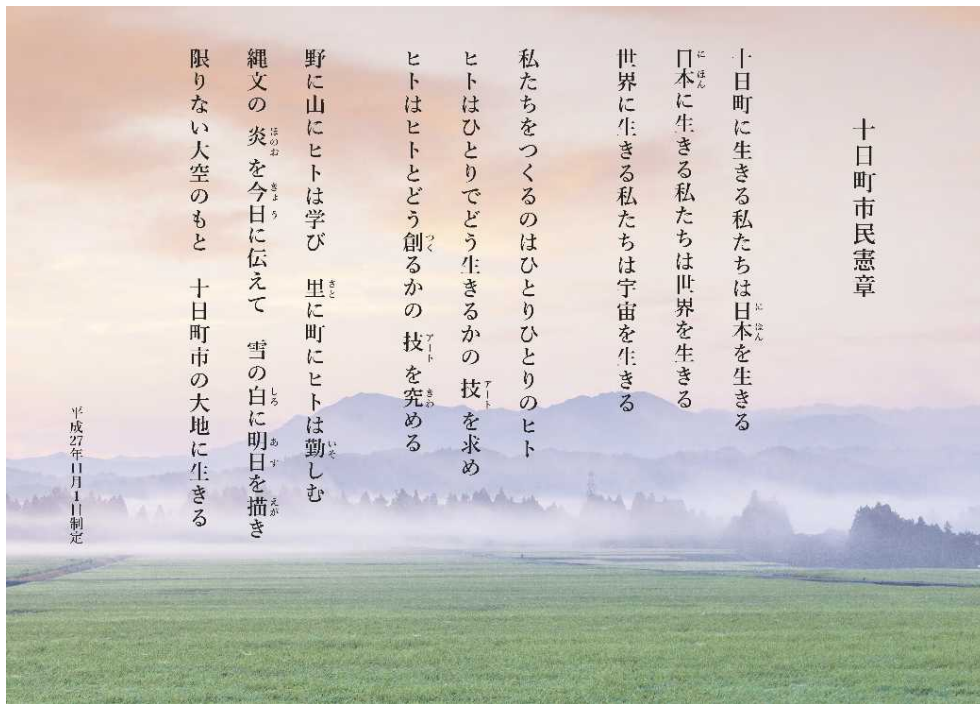
十日町市 学校教育の重点

十日町市の目指すまちの姿

雪と生きる。大地に遊ぶ。未来を創造するまち とおかまち

十日町市の目指す学校教育の姿

ふるさとに遊ぶ。共に生きる。自ら創る。



十日町市では第三次十日町市総合計画を策定しました。この総合計画を受けて、教育、文化・スポーツ分野における基本的な計画として十日町市教育大綱が策定されました。

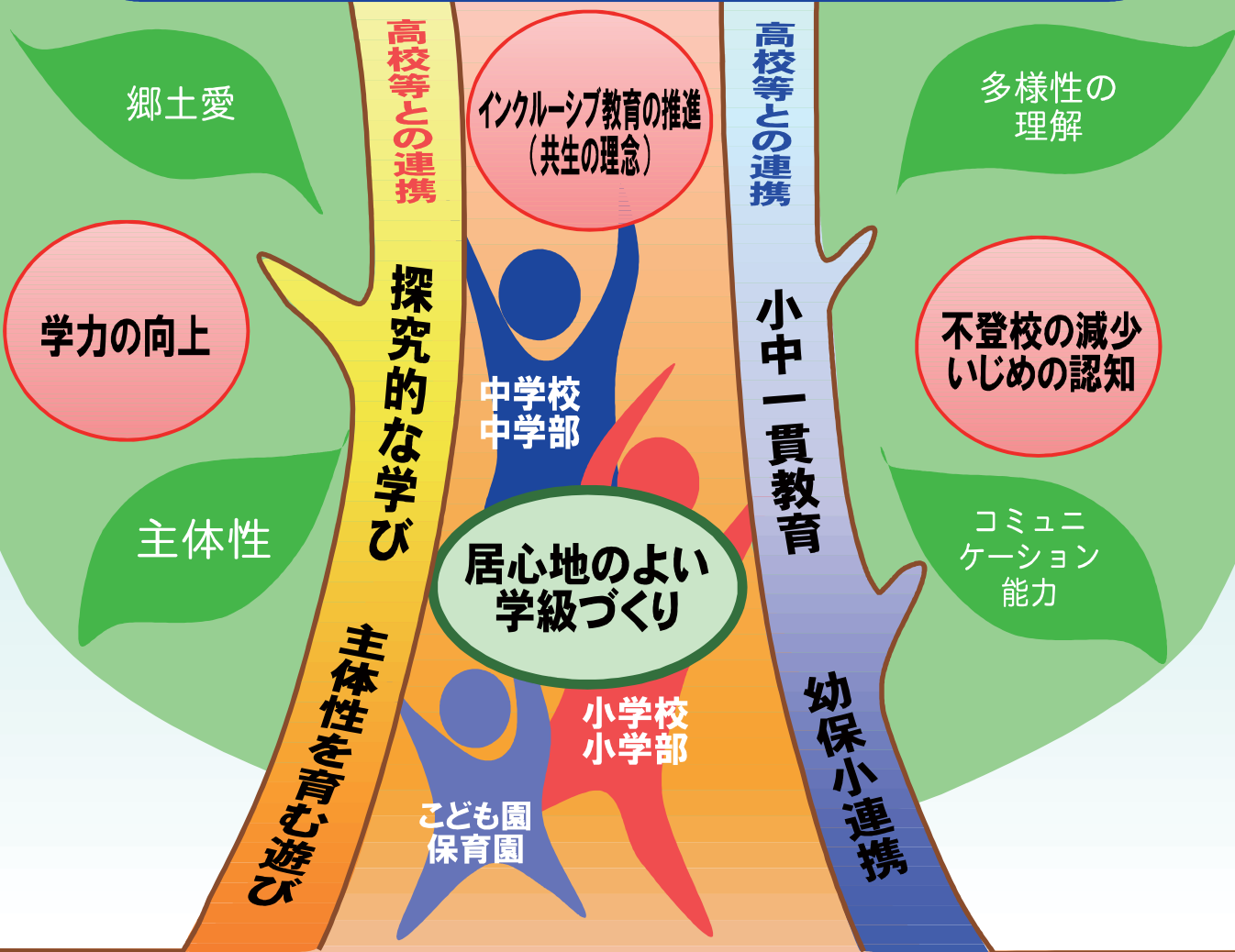
これらの上位計画と、学習指導要領、今日的な教育の方向性、市民・保護者・教育関係者の意見を踏まえ、市立学校の教育の方向性と、特に力を入れて取り組むべきことについて、ここに「十日町市学校教育の重点」として示します。

子どもにかかわる全ての人々が、子ども一人一人を理解しようとするところから始まる

十日町市の目指す学校教育の姿

ふるさとに遊ぶ。共に生きる。自ら創る。

つく



家庭での支援・家庭の協力

コミュニティ・スクール

地域との連携と協働活動

雪国文化や縄文などの魅力ある文化・地域資源の活用

主体性を育む遊び・探究的な学びの推進

自分から学びたくなる教育活動を

「楽しい」「不思議だな」「やってみたい」という「遊び心」を大切に、自ら対象にかかわり、調べ、対話を通して共に考える探究的な学びを推進します。

こうした学びを通して、未来を主体的に創造していく力を育みます。

幼保小連携・小中一貫教育

つながりで育つ、つながりで伸びる学校教育を

幼児期の教育・保育を基盤とし、年長児から小学校1年生までの「架け橋期」の連携を図ります。

中学校区を基盤として、小学校から中学校への円滑な接続を図ります。

居心地のよい学級づくり

支え合い、学び合い、高め合う学級集団を

WEBQUアンケートを活用し、一人一人が居場所を実感する親和的な学級集団をつくります。子どもが高めあう学級集団の下で、主体的・対話的で深い学びを実現します。

十日町市学校教育の重点（令和8年度～令和12年度）解説

十日町市の学校教育の重点とは、十日町市立学校の教育の今後の方向性と、特に力を入れて取り組むべきことについて示したものです。

十日町市の目指す学校教育の姿

ふるさとに遊ぶ。共に生きる。自ら創る。

十日町市では、学校教育において次の3つの姿を掲げ、取組を進めます。

ふるさとに遊ぶ。

学校教育における「遊び」の要素は、子どもが自ら考え試行錯誤する活動の充実や学ぶ楽しさの実感、主体性や探究心、創造性の育成につながります。幼少期からの「遊び」の教育的価値を大切に、本市の魅力ある文化・地域資源を生かして、ふるさとの人・もの・こととかかわりながら、子どもが楽しく夢中になれる教育活動を行います。

共に生きる。

共生の理念およびインクルーシブ教育システムの考え方にに基づき、子どもの多様性を尊重した教育を推進します。一人一人の教育的ニーズに応じて公平（Equity）に学ぶことができる教育環境を整備します。

自ら創る。

「未来を創造するまち」の実現に向けて、子どもが自ら対象にかかわり、探究心をもって調べ、対話を通して共に考える探究的な学びを大切にします。こうした魅力ある学びを通して、子どもが未来を主体的に創造していく力を育みます。

子どもにかかわる全ての人々が、子ども一人一人を理解しようとするところから始まる

教職員、保護者、地域の方々などの子どもとかかわる全ての人々が、子ども一人一人の姿、その背景や状況から願いや思いを受け止め、「その子らしさ」を理解しようとする姿勢を大切にします。

十日町市の学校教育の3つの基本方針

学力の向上 【子どもの学習意欲の向上と主体的・対話的で深い学びに至る授業改善】

インクルーシブ教育の推進(共生の理念) 【一人一人の教育的ニーズに応じた支援と共生を意図した教育活動】

不登校の減少・いじめの認知 【不登校の未然防止と個別支援の充実、いじめの認知と適切な対応】

十日町市の目指す学校教育を具現化するため、3つの基本方針を掲げました。学習意欲に着目した学力の向上をはじめ、一人一人の教育的ニーズに応じた支援の場や体制の整備、共生の理念を生かした教育活動の推進に取り組めます。また、全ての子どもが学びにつながるよう不登校の未然防止と個別支援の充実、いじめを見逃さず、学校体制による適切な対応を行うことで重大事態を防ぐ生徒指導体制の確立を図ります。

十日町市の学校教育で育みたい資質・能力

郷土愛 主体性 多様性の理解 コミュニケーション能力

市民、教育関係者の声、学習指導要領、十日町市教育大綱などを基に、学校教育で育みたい資質・能力として、次の4点を掲げました。

第一に、ふるさとを愛し、心の拠り所となる「郷土愛」。第二に、自分から価値を創造しようとする「主体性」。第三に、共生の理念を支える「多様性の理解」。そして第四に、多様な人々とのつながりを生む「コミュニケーション能力」です。

さらに、各学校が行う魅力ある教育活動を通して、学校の状況に応じた様々な資質・能力の向上を図ります。

十日町市の学校教育の3つの柱(施策)

主体性を育む遊び・探究的な学びの推進

【自分から学びたくなる教育活動を】

居心地のよい学級づくり

【支え合い、学び合い、高め合う学級集団を】

幼保小連携・小中一貫教育

【つながりで育つ、つながりで伸びる学校教育を】

十日町市の学校教育では、3つの柱（施策）を総合的に推進します。

十日町市の学校教育を支えるもの

魅力ある文化・地域資源の活用

【各種教育等】

食育 健康教育 情報教育 道徳教育

コミュニティ・スクール

人権教育、同和教育 図書館教育

地域との連携と協働活動

キャリア教育 外国語教育 環境教育

家庭での支援・家庭の協力

福祉・ボランティア教育 防災教育

部活動の地域展開 等

学校教育を支えるためには、教科学習だけでなく、各種教育活動の充実が欠かせません。そのため、コミュニティ・スクールを積極的に活用し、地域との連携と協働を大切にします。また、雪国文化や縄文などの地域固有の歴史文化の活用に加え、市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロ、市博物館「TOPPAKU」、十日町情報館などの文化・地域資源を活用し、学校教育を多方面から支えています。

さらに、子どもを支える家庭の存在が欠かせません。子どもの願いや思いを受け止め「その子らしさ」を発揮できるよう、家庭での適切な支援・家庭の協力を得ながら、地域・保護者・学校が一体となって学校教育を推進していきます。

十日町市学校教育の重点(令和8年度～令和12年度)目標値及び評価

項目	対象	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)	
1 住む地域や十日町市が好きな子どもの割合	小学生	97.1%	97.9%	ふるさとに遊ぶ。 共に生きる。 自ら創る。
	中学生	91.4%	92.3%	
2 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」子どもの割合 (郷土愛に関わる内容)	小学校6年生	81.4%	83.4%	
	中学校3年生	75.3%	77.3%	
3 「将来の夢や目標をもっている」子どもの割合 (将来にかかわる内容)	小学生	84.8%	86.8%	
	中学生	69.8%	71.8%	
4 「学校で楽しく過ごしている」と感じる子どもの割合 (居心地のよい学級にかかわる内容)	小1～中3	95.0% (令和2～6年度までの5年平均)	96.1%	
5 特別支援教育にかかわる研修会(校内外不問)に年1回以上参加した教員の割合 (インクルーシブ教育にかかわる内容)	教員	100.0%	100.0%	
6 WEBQUアンケート結果においてインクルーシブエリア(注1)内に入っている子どもの割合 (11月実施) (居心地のよい学級づくりにかかわる内容)	小学生	90.1%	92.1%	
	中学生	89.2%	91.2%	
7 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」子どもの割合 (主体的・対話的で深い学びにかかわる内容)	小学校6年生	84.9%	86.9%	
	中学校3年生	84.7%	86.7%	
8 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」子どもの割合 (探究的な学びにかかわる内容)	小学校6年生	82.3%	84.3%	
	中学校3年生	79.5%	81.5%	
9 全国学力・学習状況調査の平均正答率の当市と全国の差	小学校6年生	国語:-3.7 算数:-5.4	国算 ±0.0	
	中学校3年生	国語:-4.1 算数:-7.5	国算 ±0.0	

(注1)インクルーシブエリア:WEBQUアンケート結果において、学級満足度尺度分布図(学級内で子どもの学級満足度を示す分布図)上で、居心地のよさを感じている子ども(支援を要する子どもも含む)が分布しているエリア。エリア内の分布の割合が高いほど、安心して学ぶことができる学級で過ごしているといえます。